

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、西村俊昭『「コヘレトの言葉」注解』と対論しながら、コヘレトの言葉を一章ずつ丁寧に釈義する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. コヘレト1章の注解 4. コヘレト2章の注解 5. コヘレト3章の注解 6. コヘレト4章の注解 7. コヘレト5章の注解 8. コヘレト6章の注解 9. コヘレト7章の注解 10. コヘレト8章の注解 11. コヘレト9章の注解 12. コヘレト10章の注解 13. コヘレト11章の注解 14. コヘレト12章の注解 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 西村俊昭『「コヘレトの言葉」注解』、日本基督教団出版局、2012年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回、参考書を用いて各章の内容を報告していただき、提出されたレポート（6000字）で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、昨年度と同様に雅歌を取り上げ、最近の注解書を読みながら雅歌の解釈の射程を検討する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 雅歌 7 章 1-7 節の講読 3. 雅歌 7 章 8-14 節の講読 4. 雅歌 8 章 1-7 節の講読 5. 雅歌 8 章 8-14 節の講読 6. 雅歌の緒論問題 7. 雅歌 1 章の解釈 8. 雅歌 2 章の解釈 9. 雅歌 3 章の解釈 10. 雅歌 4 章の解釈 11. 雅歌 5 章の解釈 12. 雅歌 6 章の解釈 13. 雅歌 7 章の解釈 14. 雅歌 8 章の解釈 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> D.Garrett, Song of Songs, 2004 (WBC) C.Exum, Song of Songs, 2005 (OTL)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた担当内容と提出されたレポート（6000 字）で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>創世記18章のイサク誕生予告とソドムのための執り成し、19章のソドム滅亡伝承に於いて、ヒブル語本文の諸現象と、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラに留意し、テキスト理解を深めたい。マソラの擬似現象の Tiqqune Soferim も扱う。構文論、諸訳も検討する。後期課程「旧約聖書原典釈義 I a」と合同。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語文法修得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記18：1－3 3人の旅人 第2回：創世記18：4－7 アブラハムの応接 第3回：創世記18：8－11 誕生の約束 第4回：創世記18：12－15 サラの笑い 第5回：創世記18：16－21 ソドムとゴモラ 第6回：創世記18：22－26 執り成しと正義 第7回：創世記18：27－33 // (2) 第8回：創世記19：1－5 ソドムの訪問者と反応 第9回：創世記19：6－9 ロトの対応 第10回：創世記19：10－14 滅亡の予告 第11回：創世記19：15－17 ロト一家の救い 第12回：創世記19：18－22 ツォアル逃避 第13回：創世記19：23－28 ソドムとゴモラの滅亡 第14回：創世記19：29－33 ロトと娘達 第15回：創世記19：34－38 モアブとアンモン</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R.Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学と聖書学的解釈の地平を展望する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>創世記20章のアビメレク伝承、21章イサク・イシュマエル、ベエル・シェバ伝承、22章イサク奉獻伝承に於いて、ヒブル語本文の諸現象と、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラ研究により、テキスト理解を深める。構文論、諸訳も検討したい。後期課程「旧約聖書原典釈義I b」と合同。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語文法修得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記20：1－5 サラ事件 第2回：創世記20：6－8 神の介入 第3回：創世記20：9－13 譴責とアブラハムの弁解 第4回：創世記20：14－18 アビメレクの対応 第5回：創世記21：1－7 イサク誕生、母の喜び 第6回：創世記21：8－13 ハガルの苦難 第7回：創世記21：14－17 荒野の母子、天からの声 第8回：創世記21：18－21 約束 第9回：創世記21：22－26 友好の誓い 第10回：創世記21：27－33 ベエル・シェバ 第11回：創世記22：1－3 イサク奉獻の命令と応答 第12回：創世記22：4－8 父子の旅路 第13回：創世記22：9－12 祭壇に下る声 第14回：創世記22：13－14 アドナイ・イルエ 第15回：創世記22：15－19 祝福の約束</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R.Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第2回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第3回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第4回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第5回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第6回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第7回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第8回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第9回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第10回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第11回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第12回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第13回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第14回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、聖書のアラム語のテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル5章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル5章の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル5章の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル5章の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル5章の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル5章の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル5章の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル5章の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル5章の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル5章の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、タルグムのアラム語のテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ書を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> 前期のクラスでは、まず講義を通してヘブライ書の緒論的諸問題について学ぶ。その上で、ヘブライ書の研究書を分担しながら読み、理解を深めることにする。</p>	
<p><履修条件> 通年で履修する事が原則。できない場合は、担当者と事前に相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラスのオリエンテーション 2 ヘブライ書の緒論的諸問題 ヘブライ書とはどういう書物か？ 3 ヘブライ書の緒論的諸問題 著者問題、成立年代、成立場所、成立事情など。 4 ヘブライ書の緒論的諸問題 統一性、構成、区分について 5 リンダース『ヘブル書の神学』3-32 頁 6 リンダース『ヘブル書の神学』33-52 頁 7 リンダース『ヘブル書の神学』53-71 頁 8 リンダース『ヘブル書の神学』71-86 頁 9 リンダース『ヘブル書の神学』86-100 頁 10 リンダース『ヘブル書の神学』101-120 頁 11 リンダース『ヘブル書の神学』120-139 頁 12 リンダース『ヘブル書の神学』140-150 頁 13 リンダース『ヘブル書の神学』151-168 頁 14 リンダースの学びのまとめ 15 後期の学びへの準備 	
<p><準備学習等の指示> クラスにおいて指示する。</p>	
<p><テキスト> B・リンダース『ヘブル書の神学』川村輝典訳、新教出版社、2002年。各自が用意すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、担当者がクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極的な参加（発表の担当、質問、コメントなど）を求める。前期末にはレポートを書いてもらう予定。出席、分担発表、レポート、参加度など、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ書を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> 後期は、注解書などの助けを得ながら、ヘブライ書全体を読んでみる。</p>	
<p><履修条件> 通年の履修が原則。できない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヘブライ 1 : 1-4 3 ヘブライ 1 : 5-2 : 18 4 ヘブライ 3 : 1-4 : 13 5 ヘブライ 4 : 14-5 : 10 6 ヘブライ 5 : 11-6 : 20 7 ヘブライ 7 : 1-28 8 ヘブライ 8 : 1-13 9 ヘブライ 9 : 1-28 10 ヘブライ 10 : 1-18 11 ヘブライ 10 : 19-39 12 ヘブライ 11 : 1-40 13 ヘブライ 12 : 1-29 14 ヘブライ 13 : 1-21 15 ヘブライ 13 : 22-25、まとめ。 	
<p><準備学習等の指示> 必要に応じてクラスで指示する。</p>	
<p><テキスト> 詳しいことはクラスで指示する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じてクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> クラスへの積極的な参加(発表の担当、質問、コメントなど)を求める。後期末にはレポートを書いてもらう予定。出席、分担発表、レポート、参加度など、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書1～4章の原典積義。研究史、積義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に積義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、積義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。積義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と積義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ヨハネの福音書のギリシャ語本文についての理解を深める。</p> <p>第03回 ヨハネの序文(1:1～18)を中心に、テキストの文学批評の実際を学ぶ。</p> <p>第04回 ヨハネの序文(1:1～18)を中心に、テキストと歴史批評の実際を学ぶ。</p> <p>II. 演習(参加者による積義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ1:19～34(洗礼者ヨハネの証言)の原典積義</p> <p>第06回 ヨハネ1:35～51(最初の弟子)の原典積義</p> <p>第07回 ヨハネ2:01～11(最初のしるしーカナの婚礼)の原典積義</p> <p>第08回 ヨハネ2:12～25(宮きよめ)の原典積義</p> <p>第09回 ヨハネ3:01～15(ユダヤ人の指導者ニコデモとの対話)の原典積義</p> <p>第10回 ヨハネ3:16～21(ナレーターによる総括)の原典積義</p> <p>第11回 ヨハネ3:22～36(洗礼者ヨハネの証言、ナレーターによる総括)の原典積義</p> <p>第12回 ヨハネ4:01～15(サマリア人の女との対話ーその1)の原典積義</p> <p>第13回 ヨハネ4:16～26(サマリア人の女との対話ーその1)の原典積義</p> <p>第14回 ヨハネ4:27～42(弟子たち、村人たちとの対話)の原典積義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 積義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての積義論文[8,000～10,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの黙示録1～5章の原典積義。研究史、積義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に積義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近年の黙示録研究の動向(研究史、方法論)を概観し、積義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。積義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。</p> <p>第02回 黙示録を読む前に(その1): 黙示録の周辺、背景理解。</p> <p>第03回 黙示録を読む前に(その2): 構造と構成、神学、他。</p> <p>第04回 黙示録1: 1～8を積義し、積義の営みにおける課題と観点を確認する。</p> <p>II. 演習(参加者による発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 黙示録1: 09～20(人の子の幻)の原典積義</p> <p>第06回 黙示録2: 01～07(エフェソ教会への手紙)の原典積義</p> <p>第07回 黙示録2: 08～11(スミルナ教会への手紙)の原典積義</p> <p>第08回 黙示録2: 12～17(ペルガモン教会への手紙)の原典積義</p> <p>第09回 黙示録2: 18～29(ティアティアラ教会への手紙)の原典積義</p> <p>第10回 黙示録3: 01～06(サルディス教会への手紙)の原典積義</p> <p>第11回 黙示録3: 07～13(フィラデルフィア教会への手紙)の原典積義</p> <p>第12回 黙示録3: 14～22(ラオディキア教会への手紙)の原典積義</p> <p>第13回 黙示録4: 01～11(天の領域における神礼拝)の原典積義</p> <p>第14回 黙示録5: 01～14(天の領域における小羊礼拝)の原典積義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 積義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th or 28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>佐竹明著『ヨハネの黙示録』(上・中巻) 2009年</p> <p>R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年</p> <p>R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i>, 1993.</p> <p>R. Bauckham, <i>The Jewish World Around the New Testament</i>, 2008.</p> <p>G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999.</p> <p>D. Aune, <i>Revelation 1-5</i> (WBC), 1997. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての積義論文[8,000～10,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
原始キリスト教特殊研究 a	小河 陽
前期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>マルコ福音書本文の積義を通して、ギリシア語原典積義の方法の基本を学ぶ。個々のテキストに関して、具体的な積義上の問題を学び、神学内容を吟味するように訓練する。この学習を通してマルコ福音書神学の特徴を掴み、原始キリスト教神学史における位置づけを試みる。さらに、個々のテキストの積義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>始めにマルコ福音書の研究史を概観し、積義上の諸問題を把握した上で、幾つかのテキストを範例として積義の方法論について学ぶ。その後に福音書本文の積義に移る。取り上げるテキストを幾つか限定し、その積義を通して、神学的な問題点の把握と解釈の基本を確実にすることに努める。全体として、マルコ福音書神学の全体像を掴むことができるように試みる。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： マルコ福音書の研究史を概観して、現代の研究状況と積義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第2回： マルコ 1:21-28（汚れた霊に憑かれた男）で、範例的な積義方法について学ぶ。</p> <p>第3回： マルコ 2:13-17（レビの召命）で、範例的なテキスト分析方法について学ぶ。</p> <p>第4回： マルコ 4：35-41（湖上の嵐を鎮める）で、範例的なテキスト分析の方法について学ぶ。</p> <p>第5回： マタイ 8：5-13 とルカ 7：1-10 の比較から、共観福音書の相違を学ぶ。</p> <p>第6回： マルコ 1:1-8（洗礼者ヨハネ）を中心に積義を行う。</p> <p>第7回： マルコ 1：16-20（弟子召命）を中心に積義を行う。</p> <p>第8回： マルコ 1:40-45（らい患者の癒し）を中心に積義を行う。</p> <p>第9回： マルコ 2:23-28（安息日論争）中心に積義を行う。</p> <p>第10回： マルコ 3:20-35（ベルゼブル論争とイエスの家族）を中心に積義を行う。</p> <p>第11回： マルコ 4:1-20（種まきの譬え）を中心に積義を行う。</p> <p>第12回： マルコ 5:21-43（ヤイロの娘とイエスの服に触れる女）を中心に積義を行う。</p> <p>第13回： マルコ 6:6b-13（弟子の宣教派遣）を中心に積義を行う。</p> <p>第14回： マルコ 6:30-44（5000人の供食）を中心に積義を行う。</p> <p>第15回： マルコ 7:1-23（昔の人の言い伝え）を中心に積義を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、外国語文献も含んで、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>諸マルコ注解書、その他は授業の中でその都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの発表義務と学期末提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
原始キリスト教特殊研究 b	小河 陽
後期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ルカ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。この学習を通してルカ福音書神学の特徴を掴み、原始キリスト教神学史における位置づけを試みる。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期に引続き、ルカの福音書から若干のテキストを選び、具体的に釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の基本を確実にすることと、ルカ神学の特徴を掴むことに努める。最初に簡単に、ルカ福音書の研究史の概観と釈義上の諸問題を学ぶ。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 前期に於ける釈義の問題と方法の要点を整理・復習する。</p> <p>第2回： ルカ福音書の研究史概観（歴史家、神学者としての著者ルカの評価）</p> <p>第3回： ルカ福音書の研究史概観（ルカの教会とその環境について）</p> <p>第4回： ルカ6：1-6（ナザレの会堂での説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第5回： ルカ5：1-11（漁師を弟子にする）を中心に釈義を行う。</p> <p>第6回： ルカ6：20-49（平地の説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： ルカ7：1-7（百人隊長の僕の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： ルカ7：18-35（洗礼者ヨハネとイエス）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： ルカ7：36-50（罪深い女の赦し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： ルカ8：40-56（ヤイロの娘と長血の女の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： ルカ9：1-6、10：1-12（弟子たちの宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： ルカ9：18-27（受難予告）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： ルカ9：28-43a（山上の変貌）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： 受難と復活についての釈義的諸問題を取り上げる。</p> <p>第15回： 釈義の方法と可能性について、総括的な反省と展望をする。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、外国語文献も含んで、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>ルカの諸註解書、その他は授業の中で、その都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの発表義務と学期末に提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 b と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 弁証学の意味と可能性を明らかにする。中でも人間学的な弁証学を考察する。</p>	
<p><授業の概要> 20世紀神学における弁証学的方法を検討して、その上で人間学的な弁証学の試みを探究する。</p>	
<p><履修条件> 関心をもって参加すること。組織神学専攻で博士論文を用意している者はその研究との関係で、本講義の意味を考えること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 弁証学の再建 ② エーミル・ブルンナーの論争学の場合 ③ パウル・ティリッヒの相関的方法 ④ ラインホルド・ニーバーの弁証学 ⑤ パネンベルクの下からの神学 ⑥ 「人間の神探究」と「下からの神学」の不可能 ⑦ Geborgenheit とその根拠 ⑧ 宗教の社会的効用 ⑨ 神話的表象の効用 ⑩ 反キリスト教的無神論の意味と限界 ⑪ フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ、フロイト ⑬ 無神論的自由と自由のキリスト教的根拠 ⑭ キリスト教の絶対性 ⑮ 宗教の相対的評価 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 授業の中で指示する</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 参加意識をもって出席し、レポートを提出することによる。各々の博士論文との関連で弁証学的な主題を検討すること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期は E・ブルンナーの『教義学 II』の創造論を読みながら、正統的な創造についての教理を学ぶ。ここでは、教理史上の基礎知識を確認しながら、共通理解を深めることが求められる。</p>	
<p><授業の概要> 教科書的に組織だっって論じられているテキストであるが、それだけに内容は凝縮している。それを丁寧に解きほぐすことに心がけたい。担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 博士課程前期を終えていること。聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回：キリスト教神学における創造論の意義について、序論的な考察と問題提起をする。 第2回：上記テキスト 13-33 頁の内容を検討する。 第3回：テキスト 33-52 頁の内容を検討する。 第4回：テキスト 53-76 頁の内容を検討する。 第5回：テキスト 77-95 頁の内容を検討する。 第6回：テキスト 96-117 頁の内容を検討する。 第7回：テキスト 117-136 頁の内容を検討する。 第8回：テキスト 137-152 頁の内容を検討する。 第9回：テキスト 153-168 頁の内容を検討する。 第10回：テキスト 169-193 頁の内容を検討する。 第11回：テキスト 193-211 頁の内容を検討する。 第12回：テキスト 212-234 頁の内容を検討する。 第13回：テキスト 235-263 頁の内容を検討する。 第14回：テキスト 264-286 頁の内容を検討する。 第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストをよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> E・ブルンナー『ブルンナー著作集第3巻 教義学 II』佐藤敏夫訳、教文館、1997年。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。 単なる読書レポートではなく、論者の独自の神学的主張がなされているかどうかを見る。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期は J・モルトマンの『創造における神』を読みながら、チャレンジングな試みを批判的に検討する。ここでは、意欲的な神学的試みに対して、正統的な立場から批判的な吟味をすることが求められる。</p>	
<p><授業の概要> 大胆な提言や斬新な教理の解釈に対して、内容をよく消化した上で、議論することが肝要である。担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 博士課程前期を終えていること。聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回：上記テキスト 20-43 頁の内容を検討する。 第2回：テキスト 46-74 頁の内容を検討する。 第3回：テキスト 74-106 頁の内容を検討する。 第4回：テキスト 106-135 頁の内容を検討する。 第5回：テキスト 135-159 頁の内容を検討する。 第6回：テキスト 162-191 頁の内容を検討する。 第7回：テキスト 191-224 頁の内容を検討する。 第8回：テキスト 224-252 頁の内容を検討する。 第9回：テキスト 253-282 頁の内容を検討する。 第10回：テキスト 283-315 頁の内容を検討する。 第11回：テキスト 318-354 頁の内容を検討する。 第12回：テキスト 356-387 頁の内容を検討する。 第13回：テキスト 387-428 頁の内容を検討する。 第14回：テキスト 430-461 頁の内容を検討する。 第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストをよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> J・モルトマン『創造における神 生態論的創造論』沖野政弘訳、新教出版社、1991年、各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。 単なる読書レポートではなく、論者の独自の神学的主張がなされているかどうかを見る。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究bとの通年の履修（登録）が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> (特になし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介</p> <p>第2回 神の契約相手に定められた人間①イエス、他人のために生きる人間（その1）：テキスト 3～19 頁</p> <p>第3回 同（その2）：テキスト 19～44 頁</p> <p>第4回 同②人間性の根本形式（その1）：テキスト 45～66 頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト 66～88 頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト 89～106 頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト 106～112 頁</p> <p>第8回 同（その5）：テキスト 112～131 頁</p> <p>第9回 同（その6）：テキスト 131～143 頁</p> <p>第10回 同（その7）：テキスト 143～165 頁</p> <p>第11回 同（その8）：テキスト 165～189 頁</p> <p>第12回 同③比喻および希望としての人間性（その1）：テキスト 190～214 頁</p> <p>第13回 同（その2）：テキスト 214～232 頁</p> <p>第14回 同（その3）：テキスト 232～256 頁</p> <p>第15回 同（その4）：テキスト 256～273 頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／2』、菅岡吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表およびレポート（8,000字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録）が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> (特になし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 精神とからだとしての人間①イエス、全き人間（その1）：テキスト 275～289 頁</p> <p>第2回 同（その2）：テキスト 289～307 頁</p> <p>第3回 同（その3）：テキスト 307～314 頁</p> <p>第4回 同②精神とからだの根拠としての霊（その1）：テキスト 315～326 頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト 326～337 頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト 337～353 頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト 354～362 頁</p> <p>第8回 同③その共属性の中での精神とからだ（その1）：テキスト 363～390 頁</p> <p>第9回 同（その2）：テキスト 390～411 頁</p> <p>第10回 同（その3）：テキスト 411～420 頁</p> <p>第11回 同④その特殊性の中での精神とからだ（その1）：テキスト 421～431 頁</p> <p>第12回 同（その2）：テキスト 431～446 頁</p> <p>第13回 同（その3）：テキスト 446～474 頁</p> <p>第14回 同⑤その秩序の中での精神とからだ（その1）：テキスト 475～492 頁</p> <p>第15回 同（その2）：テキスト 492～514 頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／2』、菅田吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表およびレポート（8,000字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。</p> <p>第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名）</p> <p>第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名）</p> <p>第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書）</p> <p>第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン）</p> <p>第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）</p> <p>第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」）</p> <p>第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」）</p> <p>第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）</p> <p>第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）</p> <p>第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後近・現代カトリックの諸教令など）</p> <p>第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）</p> <p>第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」）</p> <p>第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他）</p> <p>第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。各自用意。</p>	
<p><参考書> A.E. マッグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p> <p>その他は、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生は資料研究中心なので、質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から、それらの教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は400字詰め35枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件>組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九）ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十）メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一）日本の諸教派の教会と職務論1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> A.E.マッグラース『宗教改革の思想』（教文館）。 その他は、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生は資料研究中心なので、質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から、それらの教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は400字詰め35枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。前期には、使徒教父からアレキサンドリア学派までを扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。同時に、Stead の書物を読んで、講義と平行して内容を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：使徒教父に見られるキリスト論の特色及び三位一体論の萌芽的な言及を概観する。 第2回：ユステイノス『第一弁明』に見られるロゴス・キリスト論の特色について。 第3回：弁証家に見られる三位一体論の萌芽。祈りの法則と信仰の法則の関係。 第4回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論①エイレナイオス 第5回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論②テルトゥリアヌス 第6回：グノーシス主義とキリスト教教理の展開 第7回：モナルキアニズムの実像 第8回：モンタニズムの実像と三位一体論形成への影響再考 第9回：古代教会における聖餐と洗礼と三位一体論 第10回：アレキサンドリア学派の神学の特色 第11回：アレキサンドリアのクレメンスのキリスト論と三位一体論 第12回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第13回：聖霊の神学の形成と展開 第14回：中期プラトン主義の影響と三位一体論 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史上』（一麦出版社） Stead, <i>Philosophy in Christian Antiquity</i>, Cambridge を読んでレポートする。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と Stead の書物を用いての小論文（400字×40枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。ニカイアの教父からアウグスティヌスまでを後期は扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。同時に、Gwynn と Ayres の書物を読んで講義と平行して内容を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：ニカイア会議に至る道概観 第2回：アレイオス論争とアレイオスの思想 第3回：4世紀初頭のアレキサンドリアの現状とエウセビオスの政治神学概観 第4回：アタナシオスと教会 第5回：アタナシオス神学の特色とキリスト論 第6回：初期修道制と教理論争 第7回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第8回：カパドキアの三教父の生涯と神学 第9回：バシレイオス『聖霊論』を読む 第10回：ナジアンゾスのグレゴリオス『神学講話』を読む 第11回：カパドキア教父の後期アレイオス主義 第12回：アウグスティヌスの生涯と神学形成 第13回：アウグスティヌス神学の特色 第14回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史下』（一麦出版社）。David M. Gwynn, Athanasius of Alexandria, Oxford, Lewis Ayres, Nicaea and its Legacy, Oxford を読んで、レポートする。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と Gwynn もしくは Ayres の書物を読んだの小論文（400字×40枚）</p>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学bと通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。	
<授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。	
<履修条件> 2011年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。	
<授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	